

事務事業評価における総括

部 局 名	福祉部	記入責任者	熊澤 克彦
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>福祉部の政策的事業は、96 事業のうち 69 事業で指標を達成し、S 評価としていることから、おおむね順調に進捗しています。しかし、成果はあがったものの、目標値を達成できず、A 評価としたものが 18 事業あることから、引き続き、政策・施策目標の達成に向けて、事業の見直しを行う必要があります。</p> <p>【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】</p> <p>A 評価とした福祉政策課の「コーディネーター配置事業」については、地域の実情を踏まえつつ、積極的に取り組みを進めていく必要があります。</p> <p>また、障害福祉課の「日中一時支援事業」については、放課後等デイサービス事業所等の増加により、障害者（児）の日中の活動の場は確保されつつありますが、家族の就労支援や一時的な休息の機会の提供に必要な事業として、引き続き実施していきます。</p> <p>保険年金課の「保険料の収納率の向上に関する事務」については、神奈川県および県下市町村で策定した国保運営方針により、今後ますます高い目標達成を要求されるため、保険料の徴収体制の強化が喫緊の課題となっています。</p> <p>生活支援課の生活保護の動向については、世帯数及び保護人員数は減少傾向にありますが、新型コロナウイルスの影響により見込まれる生活困窮者及び生活保護受給者の増加に対応し、困窮者に寄り添った支援を実施していきます。</p> <p>高齢福祉介護課の「地域包括支援センターの運営に関する事務」については、新たに開設した茅ヶ崎南地区を含む市内 13 地区の地域包括支援センターと連携して、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を続けられるように支援しました。</p>			
今後の方向性			
<p>【政策・施策目標の達成に向けた今後の方向性について】</p> <p>超高齢社会の進展による様々な社会的課題の解決に取り組むため、公的な福祉サービスの提供はもとより、地域資源の活用や開拓を進め、市民の共助の意識を高め、福祉の場への積極的な参加を促すとともに、市保健所をはじめ、各関係機関等と連携しながら、様々な分野の福祉施策を推し進める部局として結束し、事業を展開します。</p> <p>コロナ禍において、人とのつながりを大切にしながら、新しい生活様式に即した事業を展開するにあたり、必要に応じた感染拡大防止対策の実施や、事業の内容、実施手法の見直しを適宜行うとともに、業務の平準化、標準化や最適化に努め、より効果的かつ効率的な市民サービスを提供していきます。</p>			